

職場・地域から元気に春闘を 北海道鉄道本部が春闘学習交流会

北海道鉄道本部は、2月9日に「2019年春闘学習交流会」を開き、各支部から17人が参加しました。はじめに竹田委員長が「安倍政権の消費税10%増税や憲法9条改悪を許さないために、地域の運動に参加して国民春闘を元気にたたかおう」とあいさつし、札幌地区労連の木村事務局長と建交労道本部の宮澤書記次長の講演を聞いて学習しました。木村事務局長は「安倍『働き方改革』をはね返し、憲法を活かして8時間働けば人間らしく暮らせる社会の実現をめざそう。統一地方選挙と参議院選挙で安倍政権を退陣させるためにがんばろう」と訴えました。宮澤書記次長は道本部の春闘方針の中心点を述べました。

引き続き、最上書記長が全国鉄道本部の春闘方針の重点課題ととりくみについて、加藤副委員長が春闘要求書について、竹田委員長が北海道知事選挙・統一地方選挙と参議院選挙についてそれぞれ報告・提起をしました。討論では、国の赤字がふくらんでいる、市長が代ったら大型開発に金をつぎ込んでいるなど政治のことや、50年も経過した古い建物で仕事をさせられている、本州出身の社員は休暇を長くとるため検査がちゃんとできない状況であり適正な要員の確保が必要だなど職場の状況も出されました。地域での活動でもがんばっている発言があり、みんなで力を合わせて春闘をたたかおうと意思統一しました。

北海道知事選挙

野党統一候補に石川ともひろさん

明るい革新道政をつくる会（明るい会）は、2月12日に世話人・幹事合同会議を開いて、北海道知事選挙の野党統一候補として石川ともひろさんを推薦して当選をめざしてたたかうという提案を臨時総会（2月17日）におこなうことを確認しました。

石川ともひろさんは、2月8日に記者会見して北海道知事選挙に立候補することを正式に表明しました。これに先立ち、立憲民主党道連・国民民主党道連・日本共産党道委員会・社会民主党道連・「戦争させない市民の風・北海道」が、石川ともひろさんを野党統一候補とすることで合意しました。

石川ともひろさんは記者会見で「自分の政治経験とアイデアや発想力そして行動力を『ふるさと北海道』の発展に活かしたい」と立候補の決意を語り、政治家として平和憲法を尊重してきたこと、中央依存の道政運営から道民の声を聞きながら北海道の針路を決めていくこと、北海道の人口減少を食い止めるために働きやすい職場環境をつくり地域を活性化させること、脱原発の立場で原子力に頼らない北海道をめざすことなどを明らかにしました。

明るい会は、2017年11月にアピール「誰もが安心してらせる地域と北海道へ」を発表し「4つの共同目標」にもとづいて統一候補の実現をめざしてきました。世話人会は、安倍政権の下請け機関となっている自公道政を転換するために、石川ともひろさんの政策が「4つの共同目標」で一致できると判断し、市民と野党の共同の意思が示されていることから、石川ともひろさんの推薦を総会に提案することで一致しました。